

2022年度 小・中学生

2022年12月12日

「いのち」の作文コンクール 受賞作品が決定しました!!

公益財団法人JR西日本あんしん社会財団では、将来を担う子どもたちに、作文を書くことを通じて「いのち」の大切さを考えていただくとともに、優秀な作品を広く周知し、「いのち」を大切に作る安全で安心できる社会づくりにつなげるため、本コンクールを、近畿2府4県の小・中学生を対象に開催しており、今回で4回目となります。応募総数は5,049作品でした。

「いのち」の誕生や成長などへの心からの喜びが綴られた作品がある一方で、自らの辛い体験や生き辛さなどの悩みと真剣に向き合い、考え、前向きに生きていきたいといった思いが綴られた作品も数多く寄せられました。選考の結果、以下のとおり各賞の受賞作品が決定しましたので、お知らせいたします。

また、12月18日（日）に選考委員長の重松 清 氏はじめ最終選考委員出席のもと、表彰式を開催いたします。

1. 各賞と受賞者

- ・いのちの作文大賞（4名）
 - ・優秀賞・選考委員長賞（6名）
 - ・優秀賞（20名）
 - ・入選（70名）
- ※受賞者一覧は、「別紙1」をご覧ください。

2. 受賞作品

- ・「いのちの作文大賞」受賞作品本文は、「別紙2」をご覧ください。
- ・「優秀賞・選考委員長賞」、「優秀賞」の作品本文については、後日当財団ホームページにて掲載いたします。

3. 表彰式

「いのちの作文大賞」、「優秀賞・選考委員長賞」、「優秀賞」の受賞者を対象に、12月18日（日）に表彰式を開催します。詳細は「別紙3」をご覧ください。

4. その他

詳しくはJR西日本あんしん社会財団のホームページをご覧ください。

<https://www.jrw-relief-f.or.jp/seminar/sakubun2022/>



【参考：本コンクール概要】

◎テーマ：あなたにとっての「いのち」

「いのち」の誕生の喜びや失った悲しみ、「生きること」の楽しさや辛さなど、さまざまな観点からの作品を募集

◎募集対象：近畿2府4県（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県）に在住・在学の小・中学生

◎主催：公益財団法人JR西日本あんしん社会財団 ◎協力：西日本旅客鉄道株式会社

◎後援：滋賀県教育委員会、京都府教育委員会、京都市教育委員会、大阪府教育委員会、大阪市教育局、堺市教育局、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、奈良県教育委員会、和歌山県教育委員会、読売新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、産経新聞社、神戸新聞社、京都新聞、大阪日日新聞、京都大学人と社会の未来研究院、大阪大学社会ソリューションイニシアティブ、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

受賞者一覧 (敬称略)

※ご応募いただいた当時の府県名、学校名を記載しております。

☆いのちの作文大賞 (4名)

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
滋賀県	大津市立下阪本小学校	小 2	紺野 隆之介	くりかえすアサガオのいのち
兵庫県	神戸市立竹の台小学校	小 4	空閑 晴彦	たま子が教えてくれたこと
兵庫県	姫路市立手柄小学校	小 5	鈴鹿 巧	命のおすそわけ
滋賀県	彦根市立中央中学校	中 3	中井 柚姫菜	いのちの証

☆優秀賞・選考委員長賞 (6名)

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
京都府	私立同志社国際学院初等部	小 1	加納 陸	「ぼくのマイブーム」
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	小 3	延與 晟一良	カタツポの命
京都府	京都教育大学附属京都小中学校	小 5	永井 雄大	バイバイ
兵庫県	神戸市立こうべ小学校	小 6	清水 權	ぼくのいのちの音
京都府	京都市立久世中学校	中 1	南 俐亜	コロナ禍で気付けた事
大阪府	東大阪市立高井田中学校	中 2	中西 拳敏	そんな時間が好き

☆優秀賞 (20名)

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
兵庫県	姫路市立旭陽小学校	小 1	鵜飼 一有	せみの命
兵庫県	姫路市立伊勢小学校	小 1	仁後 颯太	「ぼくとかぶとむし」
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	小 2	鳥 翔太郎	いつもいっしょに
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	小 3	上村 晃司	魚と一緒に泳げるよ
大阪府	私立大阪信愛学院小学校	小 4	秀坂 瞳	私の命
大阪府	大阪市立大淀小学校	小 4	宮本 一世	カナブンの命
大阪府	大阪市立堀江小学校	小 5	相本 花奈	命をつなげるひまわり
兵庫県	福崎町立福崎小学校	小 6	牛尾 明日駈	「ぼくの名前」
兵庫県	姫路市立広畑第二小学校	小 6	加藤 野々香	いのちをつなぐ音楽の力
兵庫県	姫路市立船津小学校	小 6	福永 倫大朗	かけがえのない命
京都府	京都市立上京中学校	中 1	岡田 晴介	祖父の初盆
滋賀県	長浜市立南中学校	中 1	角川 心美	ありがとうじいちゃん
兵庫県	私立神戸学院大学附属中学校	中 1	宮野 修弥	どう最期をむかえるか
京都府	京都市立開晴小中学校	中 2	表 桃花	「自分らしい冒険をすること」
滋賀県	私立近江兄弟社中学校	中 2	夏原 凜愛	当たり前とは
京都府	京都市立中京中学校	中 2	安田 千桜	満たされた命
奈良県	奈良市立富雄南中学校	中 3	黒田 奈菜	「津波てんでんこ」から学ぶ命の守り方
大阪府	門真市立門真はすはな中学校	中 3	中島 そら	長く生きることが幸せ？
京都府	京都市立北野中学校	中 3	仲 水蓮	いのちのカウントダウン
滋賀県	長浜市立びわ中学校	中 3	中村 倅	インターネットといのち

☆入選 (70名)

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
滋賀県	甲賀市立貴生川小学校	小 1	田中 景大	うまれたときのしゃしん
滋賀県	野洲市立野洲小学校	小 2	田中 壺弦	コオロギのしあわせ
滋賀県	草津市立老上西小学校	小 3	河内 僚我	ぼく明日もがんばるよ
滋賀県	彦根市立河瀬小学校	小 3	木村 来夢	18さいでささげたいのち
滋賀県	野洲市立祇王小学校	小 4	山崎 心実	命の大切さ
滋賀県	大津市立田上中学校	中 1	浅田 遥	尊い命
滋賀県	大津市立仰木中学校	中 1	安達 桜咲	「なぞ」
滋賀県	大津市立仰木中学校	中 1	長谷川 小梅	私達のやるべき事
滋賀県	大津市立仰木中学校	中 2	森 はな	いのち
滋賀県	大津市立打出中学校	中 1	新井 洵乃介	いのちの大切さ
滋賀県	大津市立打出中学校	中 1	深尾 結菜	生きる
滋賀県	彦根市立鳥居本中学校	中 1	土田 瑚珀	私の誕生日
滋賀県	私立近江兄弟社中学校	中 1	箕浦 摘記	生きること、死ぬこと、そしていのち
滋賀県	私立近江兄弟社中学校	中 2	山脇 結菜	あたり前のありがたさ
滋賀県	大津市立日吉中学校	中 2	小川 かほる	植物の命に触れたとき
滋賀県	彦根市立中央中学校	中 2	堀江 夏妃	「みんな同じ命」
滋賀県	彦根市立南中学校	中 3	山下 由莉	おじいちゃんと私
京都府	京都教育大学附属京都小中学校	小 1	盛田 瑞希	たべもののいのち
京都府	京都教育大学附属京都小中学校	小 3	古株 陽茉莉	その時その時を大切に
京都府	長岡京市立長法寺小学校	小 2	中出 瑠美	「わたしの心ぞう」
京都府	木津川市立城山台小学校	小 4	森本 琉奈	二平方メートルの世界でを読んで
京都府	京都市立旭丘中学校	中 1	藤井 愛莉	人生の本
京都府	京都市立西京高等学校附属中学校	中 1	渡邊 あい	「生きる」
京都府	京都市立開晴小中学校	中 2	小笹 孔莉	いのち
京都府	京都市立開晴小中学校	中 3	早川 聡美	「母の言葉」
京都府	私立立命館宇治中学校	中 3	上田 幸華	「いじめ」と「希望」
京都府	綾部市立豊里中学校	中 3	大島 歩未	尊いだけじゃないのが命だ
大阪府	大阪市立真田山小学校	小 2	河村 寛太	おばあ長生き大作せん
大阪府	大阪市立西九条小学校	小 4	島村 幸典	駅から広がる命の世界
大阪府	富田林市立富田林小学校	小 4	田守 梨華	命はみんなの大切なもの
大阪府	大阪市立大淀小学校	小 5	田中 道啓	生きるために食べる命
大阪府	島本町立第一小学校	小 5	田村 優奈	「命って何のためにあるんだろう」
大阪府	大阪市立北田辺小学校	小 6	音野 アリシア桜	自然とともに生きる
大阪府	私立上宮学園中学校	中 2	坂巻 優月	私にとっての命
大阪府	大阪市立都島中学校	中 3	小畑 春翔	命を育む

府 県	学 校 名	学 年	氏 名	題 名
大阪府	大阪市立都島中学校	中 3	中山 涼琴	だから私は対話する
兵庫県	姫路市立別所小学校	小 1	松本 大知	つながるいのち。けんけつでれんけつ。
兵庫県	姫路市立安室小学校	小 2	松尾 奈々帆	大せつないのちでつよく生きたいな
兵庫県	姫路市立安室小学校	小 3	森口 璃乙	わたしのお兄ちゃん
兵庫県	私立神戸海星女子学院小学校	小 4	齋藤 愛果	命の大切さ
兵庫県	加古川市立平岡小学校	小 5	網盛 希乃花	「大人のけんか」
兵庫県	姫路市立香呂小学校	小 5	高田 結奈	誕生した新しい命
兵庫県	兵庫教育大学附属小学校	小 5	徳岡 冴汰朗	いのち
兵庫県	私立甲南小学校	小 6	井野上 碧泉	笑顔のお好み焼き
兵庫県	福崎町立福崎小学校	小 6	隅田 悠太	「命をもらって生きるということ」
兵庫県	姫路市立船場小学校	小 6	吉田 更紗	いのちの支え合い
兵庫県	播磨町立播磨南中学校	中 1	告野 由宇	命の大切さ
兵庫県	姫路市立山陽中学校	中 1	中野 早都	「大切な言葉」
兵庫県	私立関西学院中学部	中 1	和田 いおり	いま、ここに生きている
兵庫県	私立関西学院中学部	中 2	荒井 祐香	「一つのいのち」
兵庫県	私立関西学院中学部	中 2	八木 優貴	祖母といのち
兵庫県	神戸市立有野中学校	中 2	山口 拓海	救急救命士講習を受けて
兵庫県	私立夙川中学校	中 3	工藤 優華	感情
兵庫県	尼崎市立小園中学校	中 3	原 舞汎	救えるいのち
兵庫県	尼崎市立小園中学校	中 3	山岡 奏心	「いのち」の証
兵庫県	尼崎市立小園中学校	中 3	米山 穂香	命を考える
奈良県	生駒市立生駒台小学校	小 3	橋本 成美	いのち
奈良県	奈良市立興東小学校	小 5	奥田 倖成	弟が生まれた日
奈良県	香芝市立香芝西中学校	中 2	角谷 美桜	あたりまえの一日
奈良県	香芝市立香芝東中学校	中 2	田路 梨心	命の大切さとこれからの決意
奈良県	奈良市立富雄南中学校	中 3	岩田 紗季	笑顔の仮面の裏
奈良県	奈良市立富雄南中学校	中 3	天雲 悠斗	僕と猫
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	小 3	佐久間 董	命について
和歌山県	私立智辯学園和歌山小学校	小 3	前田 結衣	命をふきこむこと
和歌山県	高野町立高野山小学校	小 3	加勢田 悠生	「あしたも野球がんばろう」
和歌山県	和歌山市立岡崎小学校	小 6	遠矢 真大	命は一つ
和歌山県	上富田町立上富田中学校	中 2	尾崎 友咲	一日、一日を大切に
和歌山県	和歌山県立きのかわ支援学校	中 3	大久保 颯人	「命」からのメッセージ
和歌山県	和歌山大学教育学部附属中学校	中 3	佐々木 健人	僕の弟
和歌山県	岩出市立岩出中学校	中 3	巽 由奈	「五文字の重み」

くりかえすアサガオのいのち

大津市立下阪本小学校 二年C組 紺野 隆之介

一年生のとき、学校で一人一こずつプ

ランターでアサガオを育てることになった。ペットボトルのジョーロを作り毎日水をあげた。夏休みになったら自分のアサガオを家にもってかえってかんさつすることになっていった。でも夏休みちよくぜんかぜをひき三日間学校を休んだ。その間にアサガオはかれてしまった。夏休みのしゆくだいのアサガオのかんさつプリントに一つも色がぬれなくなってしまった。ぼくはしよんぼりした。

でも夏休みしよ日にむらさきのきれいなアサガオが一つさいた。すっかりあきらめていたのに。すぐくうれしくてさい高の気分だった。ぼくはかんさつプリントに一つ色をぬった。その日から毎日アサガオがさいた。一つ二つ三つ四つ。プリントには一日八つまでしかぬれないのに、それい上さいた日もあった。一どかれたように思えたアサガオがこんなにさくなくて。毎朝アサガオを見るたび元気がでた。八月の終わりに近づくと、アサガオはかれはじめて、たねをつけはじめた。さよならのときだ。アサガオのかれ

たつるをすこうの工作につかった。

今年の六月くらい、去年アサガオのプランターをおいていたじめんにかわったくさが生えていることにきづいた。「ざっそうかな？」とはじめは思った。しばらく育っていくのを見まもっていたらはっぱの形が去年育てていたアサガオによくにている。「まさか？」と思いなながらも毎朝水をあげることにした。ぐんぐん育った。おじいちゃんがしちゅうをたててくれた。しちゅうに、ぐるぐるとツルがまきつく。夏休みになって二日目むらさきのアサガオがさいていた。びつくりした。まさか今年もまたアサガオにあえるなんて。

アサガオの生命力のつよさにぼくは二年れんぞくでおどろかされた。こうなると来年の夏にもアサガオにあいたくなってくる。よし、このぼしよをアサガオゾーンにしよう。

たま子が教えてくれたこと

神戸市立竹の台小学校 四年一組 空閑 晴彦

去年の夏、ぼくには一緒にすごした友

だちがいた。その子はとてもきれいできらきらしていて、とつても食いしんぼうだった。毎日遊んだ友だち、その子の名前はたま子。ヤマトタマムシの女の子だ。

たま子と出会ったのは八月八日のことだった。公園に行こうと外に出たら、すぐ前の道路に、たま子がペタリとすわりこんでいた。本物のタマムシを初めて見たぼくは、うれしくて大急ぎで走ってかけより、そつとたま子をつかまえた。たま子にはにげようとしなかった。ぼくは帰るとすぐに図鑑でタマムシの事を調べた。すると、タマムシはとてもせんさいで、よく拒食症になってしまうと書いてあってぼくはびつくりした。拒食症だなんて、まるで人間みたいだ。だから毎日ぼくはエノキの葉を取りに行った。たま子はエノキ以外の葉は食べなかったし、エノキが少しでも枯れていたり、よごれていると食べない。だから毎日活き活きとした濃い緑の葉をぼくは探さなければならなかった。大変だったけど、おいしそうにシヤクシヤクと食べるたま子を見ると、ぼ

くは幸せだった。

秋になるとたま子は弱っていった。そして十月九日、とうとう死んでしまった。たま子とぼくは六十三日を一緒にすごした。たま子はふつうのタマムシの三倍も長く生きてくれた。ぼくは大声でわあわあ泣いた。毎日ごはんをあげて大切に大切に育てた分、別れがこんなに悲しいんだと思った。そして泣きながら気付いた。ぼくに毎日ごはんを作って育ててくれているお父さんやお母さんも、もしぼくがいなくなったら、こんな風に悲しくて苦しい思いをするんだと。だからぼくは自分の命も大切にしなくちゃならないんだと。どの命もだれの命も、大切にしている家族がいる。だからみんなも大切にしないでほならない。そんな大事なことをたま子が最後にぼくに教えてくれた。そう思ってぼくはまた大きな声で泣いた。

命のおすそわけ

姫路市立手柄小学校 五年三組 鈴鹿 巧

五月、学校の校門に植えられているパンジーやビオラの花畑に黒と赤のいかついトゲトゲした子がわがもの顔でうごめいている。

ツマグロヒョウモンというタテハチョウ科のチョウの幼虫だ。毒々しい姿ではあるが、性格は穏やかで、そのとげはやわらかく、毒もなく、刺すこともない。僕の大好きな蝶だが食欲がすごくて、一匹いたらパンジーは、丸裸にされてしまう。そのためきらわれる。

四月、新学期には満開のパンジーには、この幼虫たちがたくさんいて、先徒たちが「先生、毛虫がいっぱいいるよ！こわい！」と訴えて、あわてて先生たちが駆除に走るので僕は気が気でない。今年は気候が寒く、出はじめたのは花がしおれてしまった五月も半ばだったので、注目されず安心していた。

でもパンジーは花がしおれると、すぐ次の花に植えかえられてしまう。どうせ捨てるならそれまで幼虫たちにたくさん葉っぱを食べてもらって、大きくなって、

立派に羽化してほしいと思った。そこで僕は毎日のように幼虫をできるだけ目につかないパンジーの鉢に移してみんなの目から隠すようにした。

野生の蝶の羽化は1%程度だ。それは気候の影響だったり、天敵の鳥や人間によって駆除されたり、寄生虫のえじきとなるからだ。そんな中、奇跡的に蝶になれるものたちは、花の間を飛んで受粉を助けていてくれている。みんな命をつなぐ大切な役割を任うのだ。

ある日、パンジーの鉢と葉っぱは、蛹のたくさんついた茎ごと、根こそぎ掘り返され、鉢の縁の蛹も全て取り外して捨てられて、土だけになっていた。そしてその数日後には別の花が植えられた。僕はがっかりした。

僕の住む姫路市でジャコウアゲハは市の蝶なので手厚く保護され、あちこちに食草であるウマノスズクサが育成されている。幼虫も成虫を捕ることも禁止されている。けれど他の蝶は基本害虫扱いだ。モンシロチョウはキャベツ、アゲハチョウ

ウはみかん、ツマグロヒョウモンはパンジー、花や野菜を育てたり、大切にしている側の立場の人たちからすると、蝶の幼虫たちは憎い敵だと思う。楽しみにしていた花を枯らし、食物をだめにするやつをどうしてわざわざ育てるようなことをしたいと思うだろうか。

でも、見ごろを過ぎた花、作物を収穫し終わったあと、葉っぱをどうせ捨ててしまふならば、蝶が巣立つまでのほんの少しの間、新しい命におすそわけをしてあげてほしい。

害だけじゃない。彼らは、蝶になれば花の受粉を助け、命を、実を育ててくれる。だから幼虫たちが蝶になり飛び立つまでの食糧として、隠れ家として、ほんの少しの期間分け与えて、命をつながせてあげてほしい。

それが「自然と共に生きることわり」ではないのか。蝶の舞う町はきつと、人の心も、自然も豊かにしてくれる命のかけはしとなれると思う。

いのちの証

彦根市立中央中学校 三年 中井 柚姫菜

8月15日は終戦記念日です。テレビでは、戦後77年たったと報じています。

私にとっては何となく昔の話ですが、戦争によって310万人の人が命を落とすにいったのです。以前は、このようなニュースを聞いても特別何かを感じることもなく「ふーん。そうなんだ。」と思うだけでした。しかし、修学旅行で広島に行ったことを思い出し、原爆ドームなど大変悲惨な現実があったことを目の当たりにしてきた今は、それらを深く理解し大切ないのちが失われていったこと、また、同じことをくり返さないことを再度心に刻みました。他国では、今だに戦争がくり返されています。失われる命は戦争だけでなく、事故、殺人、自殺、虐待、病気などさまざまなニュースがメディアで流れている毎日です。これらの失われる「いのち」のことを思う時、私には一生忘れられない「いのち」があったことを思い出さずにはいられません。

のです。今一度私が知る母のいのちの証をたどってみたいと思い、この作文を書くことを決めました。

母は40年という灯りのろうそくを持つて生まれてきました。母の幼い頃のこととはそんなにたくさん知らないけれど、写真で見る小学生の母は私とそっくりで、自分がタイムスリップしたのかと思ったことがあります。母は私と妹に「いのち」をくれました。私は12年余り母と共に生き、いのちの証という思い出を作ってきました。この頃、母のいのちの灯りが消えるなど思いもしませんでした。

そして、それは私が小学3年生の時に突然やってきました。母が病気で入院して手術を受けなければならなくなったのです。私も毎日の生活が全く変わってしまふことに従うしかありませんでした。誰よりも大好きな母のいのちのため、家族全員で一生懸命に尽くしました。治療によって、薬の副作用で見ていられないような日々もありました。しかし、母が懸命に戦っている姿は一生忘れることはありません。そして、どんな時もいつも

の自分でありたいと努力していました。悲しくてつらくて、くやしくて多くの思いが母にはあったと思います。大声を出して泣きたい時もあったでしょう。「なぜ？」と恨みたい時もあったでしょう。でも、母は私たちの前では決して弱みを見せることはありませんでした。いつも前向きに生きていました。必死の思いで生きていました。

やがて、3年半がたった頃、最後の入院時に母はどうしても家に帰ることを希望しました。訪問診療、訪問看護、福祉用具などが大急ぎで整えられ、母の望みはかなえられました。最後の一週間の始まりでした。点滴、酸素の管をつけて我が家で私たちと同じ部屋で眠り、私たちを見つけて過ごしました。私たちを残していくことの不安や悲しみは、どんなに大きかっただろう。その当時は、それらを察することはまだ出来ませんでした。しかし、今、母のいのちを思う時、はかり知れない母の思いが胸いっぱいこみあげてきます。

そしてとうとう、まだ雪が舞う季節に静かに母のいのちのろうそくは消えていきました。母は、私の卒業式や入学式の時にと手紙を残してくれました。突然祖母から渡された手紙は、涙でなかなか読むことができませんでした。最後につづられた「ゆきちゃん、大大好きだよ。」

の言葉に涙があふれ出しました。私は今回母の「いのちの証」を追い、改めて母を思い出し、いのちについて考えることができました。

母のように、いつでも笑顔で前向きな自分でいられるようになりたいです。

「大大好きだよ。ママ。」

表彰式について

1. 開催日時

2022年12月18日（日）14:00～15:45

2. 会場

毎日新聞オーバルホール（毎日新聞大阪本社ビル地下1階）

J R大阪駅（桜橋口）から徒歩8分

J R福島駅から徒歩5分

阪神大阪梅田駅から徒歩8分

地下鉄西梅田駅から徒歩8分

3. 内容

- ・主催者あいさつ

- ・表彰

いのちの作文大賞（4名） ※「いのちの作文大賞」受賞者コメントあり

優秀賞・選考委員長賞（6名）

優秀賞（20名）

- ・重松 清 選考委員長の講評

【重松 清 選考委員長プロフィール】

1963年生まれ、岡山県出身。早稲田大学教育学部卒。出版社勤務をへて著述業に

2016年早稲田大学文化構想学部で任期付き教授に就任。

直木賞はじめ受賞多数。

「いのち」や「家族」をテーマにした作品が多く、教科書への採用や映画化・テレビドラマ化されている作品も多い。

主な映画化作品 『ステップ』『疾走』『きみの友だち』『その日のまえに』

主なテレビドラマ化作品 『とんび』『流星ワゴン』『ビタミンF』

主な教科書採用作品 『カレーライス』『卒業ホームラン』『タオル』

4. 出席者

①受賞者

「いのちの作文大賞」「優秀賞・選考委員長賞」「優秀賞」受賞者ならびに保護者・学校関係者 計約150名

②最終選考委員

委員長 重松 清 氏（作家）

副委員長 菊池 省三 氏（教育実践研究家）

委員 坂下 裕子 氏（こども遺族の会「小さないのち」代表、当財団理事）

委員 丸川 征四郎 氏（吹田徳洲会病院顧問、近畿大学客員教授、当財団理事）

③J R西日本あんしん社会財団

理事長 来島 達夫（西日本旅客鉄道株式会社 顧問）

常務理事 梅谷 泰郎（西日本旅客鉄道株式会社 常務執行役員）